4年生ままでに

合格の秘訣は低学年の取り組み！

何をすればよいか知っていますか？

- ・ いつ自立させますか？
- ・ いつ勉強の習慣をつけますか？
- ・ いつ平面、立体的感覚をつけますか？
- ・ いつ計算力をつけますか？
- ・ いつ読書させますか？
- ・ いつ体力をつけますか？
- ・ いつ体験学習をさせますか？
- ・ いつ目標校を決めますか？
- ・ いつどんな塾を選択しますか？

小学受験は中学受験のスタート地点

低学年は千差万別で、進学塾に行く生徒もいれば、公文やそろばんに行く生徒等様々です。

この時期に何をどう選択するか、皆さん迷われていると思います。難関校への取り組みはより計画的に育てる事が求められます。しかし、低学年で最終的に難関校を目指すための土台作りをしっかりと行っている塾は数が少なく、難度が高い進学塾だけでは成果が出ていないのが実情です。

成果を出している方は必ず親か**家庭教師がサポートして何度も繰り返し同じ問題をさせている**はずです。そうすることでやっと定着するのです。

とは言っても、そのペースについていけないからと言ってあきらめる必要はありません。

すべての教科を先取りして飛び級をするだけが手段ではありませんし、塾の内容が完全でもありません。

低学年は子供の発育状況を考慮しながら最終的に**3年生ままでに土台を付ければ**いいわけで、

その取り組みせ方は個々で違っていても気にする必要はありません。この時点で順位ばかりを気にしてもいい結果を生むことはないでしょう。難関校は能力の高い生徒が努力を積み重ねて行ける学校なのです。

その能力を育成するのは3・4年生ままで。学力を育成するのは1年生から6年生ままでです。

能力の高い生徒は4年生以降の塾のカリキュラムを消化していく際にも、処理能力・スピードが早いいため短時間で処理できます。その結果、2度見、3度見の時間が生れるのです。

そういった生徒でないと5・6年生の課題の量の多さと難問を消化できなくなります。

ですから、この**低学年の時期に能力の育成と学習習慣をつける必要があります**。

その取り組む内容と取り組み方が中学受験の一番大きな差となります。

プロゲートのプロ家庭教師は入試問題の解説本を執筆されている講師や入試問題や公開テストの問題を作成している講師、塾や予備校で最難関コースを担当していた講師、私立校や大学講師を中心に構成しています。プロ家庭教師が指導する場合、講師の指導だけで志望校への**合格に導くノウハウ**を持っています。

また、塾や予備校の指導内容も熟知しておりますので併用の場合でもバランスを取りながら志望校の受験に必要なでない内容を削除して最短時間で合格へ導きます。

詳しい指導内容等についてはお問い合わせください。